

民報 ゆうばり

衆院・小選挙区(道10区)予定候補決定!

木村けんじ氏「61年かけた人生の結論として」意気高く決意を表明

日本共産党の躍進で、アメリカ・世界にその政治主張をしよう!

4月22日、日本共産党演説会が岩見沢市平安閣で開催され、夕張から26名が参加しました。

冒頭、党南空知地区委員長から衆院小選挙区(道十区)予定候補木村けんじ氏が紹介されました。われんばかりの拍手の中で登場した木村氏は、次のように決意を述べました。

「私は衆院小選挙区(道十区) 日本共産



党公認予定候補の木村健治です。全力で頑張りますのでご支援お力添えよろしくお願ひ致します。

(大きな拍手) 私は、空知の美唄市で生まれ、高校教員として35年間、美唄や夕張など全道各地で学校教育の分野で働いて参りました。教育の目的は『自己の完成』です。この目的を達成するために、教育の良心、真理、真実に従うものほか何もありません。私は、こういう教育を目指して歩んできました。『よき教師はよき組合員である』高教組一人としても頑張ってきました。生徒から多くを学びました。また先輩諸氏から多くの教えを請いました。

(中略) 一昨年夕張高校を退職し、今日予定候補者として立っているのは、私の61年か

けた人生の結論でもあります。なんとしても日本共産党を大きくしたい、躍進したい、そのために私は力を尽すそうという気持ちでいっぱいです。

日本共産党がこの間なかなか躍進できない、そういう苦難ではありません。かつて10万人いた美唄市、最盛時には22もの炭鉱があった夕張市、空知10市18町村、留萌管内1市7町村。それぞれかつて活気がありました。しかしこの長い期間に、自民党の悪政を大いに受けてきました。が今また、新たな条件のもと新しいまちづくりに向かってみます。この点で国政の果たす役割は非常に大きいものがある。私は強く感じています。

皆さん、本当にご

支援・お力添え、よろしくお願ひいたします。今日参加できなかった後援会・支持者のみなさんにもぜひ応援をいただきたく、よろしくお願ひいたします。

さて、日本の政治は本常に激動期を迎えていきます。2年半前、国民の皆さんの1票1票の力で、自民・公明の政治はけしからんと政権交代を果たしました。その変った民主党政権がいま国民の願ひを裏切り続けています。この十区の皆さんに(中略) 政治の対抗軸はどこにあるのか。アメと、挨拶し聴衆からリカいいなり、生活破壊の財界中心の政



小雨模様の夕張、

市内3ヶ所で、

くまがい桂子市議街頭演説

日本共産党南空知地区委員会の宣伝力に岩見沢美唄、栗山、南幌などの女性で編成された宣伝隊が18日、夕張の街頭宣伝を行いました。

例年にない大雪で道路わきの大きな雪山が残る末広地域や若菜地域で、地元の後援会員などが出迎える中、くまがい桂子市議がマイクを握りました。

脱原発の世論が盛り上がるにもかかわらず、再稼働を進めようとする野田政権の横暴をさし止めようと訴え、さらには財政危機を消費税増税で国の将来を危険に導く、破たん政治を許さないとする党の政策をわかりやすく説明しました。



4 月 22 日、札幌市 森啓氏は「夕張再教育文化会館において、前夕張市長の藤倉夕張市議と NPO 法人自治体政策研究所の森啓理事長による講演と対談「夕張再生への道すじ」が開催され、約 50 人が参加しました。



道と国は債務の分担をすべき

藤倉氏は、353 億円の再建計画は国や道に作らされた。夕張の財政破綻について、国のエネルギー政策の転換、炭鉱閉山の後は、国ですべきものなのに、市に 382 億もの起債をさせている。産炭法の失効。観光リゾートにあおったのも国。三位一体の改革。人口削減。平成 4 年の議事録には「もう、破綻している」と書いてある。国や道とたたかうと、ききと述べ、参加者から種々の意見や感想が出されていました。

森啓氏は「夕張再生」とは、一日も早く自治社会を確立すること。「債務額」は道庁が債権者会議で債権放棄をすべきとするところを、全額保証したから。市の起債の許可は道庁がするのだから、道庁の行政の低さを表明するもの。夕張市の債務増大は、国の「内需拡大政策」のため、各道庁が「後日に返済を肩代わりするから」

がれきの受け入れ NO！ 子どもたちの未来を守ろう！



4 月 15 日、札幌市かで

る 27 において、福島第一原発の事故で北海道に避難している方たちの公開座談会「届け、避難者たちの声」が開催されました。主催したのは、東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌（通称むすびば）で、福島、宮城、栃木、群馬、東京の各地から避難の 12 人が参加し、約 170 人が傍聴しました。

の鼻血、下痢、リンパ膨れなどの症状に医者はないでしよう」という。「逃げてきても健康に不安。食の内部被曝も怖い。民医連で健康相談会を実施してくれている」「口内炎、青あざ、めまい、貧血、ひどい母乳を飲ませていないのではいかと不安」「免疫力が低下し、函が浮く」「甲状腺検査は現地では 2、3 カ月待ち。不安と恐怖で狂いそうになる」「有事状態なのに、平静を装って、安全をないがしろにしている」「がれきの受け入れ、リサイクルなどはどんな影響が出るかわからない」「上田市長はがれきの受け入れに反対で感謝する。市民の命が一番大切」「なぜ、北海道に来たか」「放射能のことをたくさん勉強したから」「子どもたちの未来、命を守ることは本当にシンプル」「メディアのいうことを信頼できない。同じ苦しみを味わってほしくない」などと訴えていました。



日本共産党准中央委員
道政策委員長
山崎 和也の

「かけある記」

「A さんとの約束」

私の候補活動を支えてくれ、選挙カーも運転してくれた A さんが闘病生活の末、亡くなりました。早すぎる別れが本当に残念でなりません。
A さんは、借金未払いや退職強要など不当な労働行為をやめさせようと労働組合を立ち上げた方でした。その争議の中で日本共産党に入党し、縁あって選挙事務所で働いていただくことになりました。

そんな経歴を聞き「闘士」というイメージのあった A さんでしたが、いざ会うと穏やかで物腰の柔らかい方だったことに驚きました。道内を一緒にまわるなかで、A さんが「真面目に働く人が報われる社会を」と願って入党したことや、各地でご家族用にお土産を買われる情の深いお父さんであることもわかりました。

よく A さんは私に「はたやまさんは若くて、これから頑張ってもらわないといけないんだから、体だけは気をつけてよ」と話してくれました。私だけでなく、事務所や選挙カーのスタッフにも心配りをしてくれる A さんを誰もが慕っていました。

教科書や偉人伝に載る人だけが歴史の主人公ではないはず。人間らしい生き方を願って多くの人と手をつなぎ、支え励まし合う、私たちのまわりの誰もが歴史の主人公です。A さんの生き方もまた、私の心に刻み込まれています。志を継ぎ、誰もが安心して暮らせる社会の実現を！必ず党議席を奪還するため、がんばります。